

ちから



浄土宗西山深草派宗務所
総本山 誓願寺



誓願寺蔵 重要文化財 毘沙門天立像

いちぼくづり ちようがん
一木造 彫眼
像高 85.3cm
平安時代・寛弘8年(1011)頃

『誓願寺縁起』によればこの毘沙門天像は、平安時代・寛弘8年(1011)頃に造立されたことが伝えられ、その年代は像容などの特徴とも隔たりがなく、基準作例として貴重である。

頭体から足下に踏む邪鬼までを一材から彫出している。華やかな天冠台、花冠に見られる精緻な彫技によって甲冑や着衣も刻出されており、いわゆる檀像の特色がみられるとともに、一方では柔らかな質感のある髪や忿怒相でありながら穏やかな面相に、和様彫刻の成立が見てとれる。左手の臂を曲げて宝塔(現在失)を捧げ、右足を半歩前に出すポーズは極めて自然で、一材から彫出した仏師の高い力量が見てとれる。

三井記念美術館 館長 清水眞澄

◆ 目次 ◆

- 開宗八百五十年に向けて③
- 賢問子行状記 ②⑤
- 新管長猯下挨拶
- お釈迦さまの十大弟子 ⑮

- インド **ドタバタ** 夫婦道中記 ④⑨
- 総本山誓願寺だより
- 何でも“お寺探偵団” Vol.53
阿弥陀院

開宗八百五十年に向けて

3

布教師会 小島雅道

頭光の橋

法然上人が撰述した論文、「選択本願念仏集」は、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて、摂政、関白、太政大臣を務めた九条兼実公の要請によつて著されたものです。

その兼実公は、将来を嘱望されていた長男・良通が早世した心痛から、法然上人の専修念仏の教えに救いを求め、建仁二年（一一〇二）正月二十七日、法然上人を戒師として出家しました。

三年後の、元久二年（一一〇五）四月五日、兼実公が、法然上人を自分の山荘に招いて、お念仏の教えを数時間、聴聞された日のことです。

法然上人が、お帰りになる時、ちょうど邸内の橋の上を渡りかけた頃です。兼実公は、突然、履き物を履くことも忘れ

て庭に下りると、うづくまるように、額を地面につけて上人を礼拝しました。しばらくして、立ち上がると、そばの二人

に「法然上人が地面から離れ宙に浮き、蓮華の台を踏まえて橋の上をお歩きになり、頭の後ろには、円光が現れていた。おまえ達は見なかつたのか」と

感激の涙をいっぱい流されておっしゃいました。その後、兼実公は、この橋を頭光の橋と呼び、益々、生き仏のように法然上人を敬いました。

この世は無常、人の命は、はかないものです。そして、思うようにならないのが人生です。大切な家族を失った悲しみは、いつの時代でも、誰にとつても、つらく苦しいものです。わが子を亡くした、そのつらさ、苦しさ、深い悲しみを、大きな慈悲の心で全て受け止めて下さる法然上人は、兼実公にとつて、どれほど大きな存在だったことでしょう。法然上人

の説かれる、尊い念仏の教えに、心から感激され、あふれる涙で、上人のお姿に仏さまの姿を見られたのでしよう。

清らかで、徳が有り、慈悲深い尊いお方は、光り輝いて見えるものです。そんなすばらしい法然上人に私達は、生まれた時代が違つたため、直接会うことも、教えを頂くこともできませんが、そのお姿を絵や像にして見ることが出来ます。さらに、その有り難い、念仏の教えが、今もなお、伝えられ、実践され、遠く八百五十年も続いています。

法然上人も、仏教に出会えたこと、そして、浄土の教えにたどり着いたことを喜ばれ、「ここに我らいかなる宿縁にこたえ、いかなる善業によりてか、仏法流布の時に生まれて、生死解脱の道をきく事をえたる」と感激され、「あいがたき本願において、おこしがたき道心をおこして、離れがたき輪廻の里を離れて、生まれがたき浄土に往生せん事、悦びの中の悦びなり」とお言葉を残しておられます。日々の生活にただただ、時を重ね、当たり前前に過ぎがちな私たちです。今一度、心からお陰さまと手を合わせ、感謝のお念仏を捧げましょう。何事もない日々が、新鮮な感動や光り輝く感激の毎日になることでしょう。

賢問子行状記

25

宝蔵寺住職 小島英裕

第十六話

「尾上女、現益を蒙る」(中編)

左近は、この世の悪縁が善縁となり、高野山蓮花谷に知り合いを頼り、髪を下ろし出家して心月坊と名を改め、昔とは別人の姿になりました。墨染の麻衣を着て、手には数珠をかけ、毎日仏さまにお香と花を供え、仏道修行に励みました。一方、尾上は、御台所に宮仕えをし、幼い頃より、誓願寺の阿弥陀さまを崇め奉り、常に信じておりました。しかし、奉公勤めの身であるので、誓願寺に参詣することはなかなか叶いませんでした。そこで、三寸(10センチ)の仏像を求めま

して、これを誓願寺の仏さまと思い、自分の部屋に祀り、朝夕忘れずに拝みました。

「今度、高野山へ夫を探しに行くときも私の胸にかけていこう」

と考えました。そして尾上は高野山へ左近を探しに行きました。やがて、高野山の紙屋という宿場町まで辿り着きました。が、これより上には登ることは叶いません。宿に留まり、宿の亭主をたよりに左近の行方を尋ねましたが分かりませんでした。亭主は、「この山には八つの峰、九つの谷がある。探すあてもない。帰った方がよろしいかと」

と言いました。尾上が泣きながら、

「大変なご苦労だと思えますが、今一度探して下さいませんか。しかし何も差し上げる物がありません」

と、上着の小袖を亭主にわたし、

「せめてこれで」

と左近の搜索を頼みました。亭主は仕方なく、

「もう一度探してみましよう。しかし名前もわからない。最近出家した人と言っても、この山では毎日多くの人が出家します。無理だとは思いますが」

と言つて、ほうぼうの山や谷にある宿坊を尋ねて回りました。しかし、それと思われる人はおらず、力はてて仕方なく帰ってきました。それを聞いて尾上は途方にくれました。

「遙々ここまで夫を尋ねて来ましたが、一目も会わずこのまま帰るなんて悲しい。今晚、谷川の淵に身を沈めよう」と、思いを決めました。

(つづく)



新管長猥下挨拶

浄土宗西山深草派管長
総本山誓願寺第百二世法主

倉内 賢道

この度、平成三十一年一月十七日、当本山において入山の式を終え、浄土宗西山深草派管長並びに、総本山誓願寺第百三世法主に就任致しました。高齢ですので、不安もありましたが、

お陰で健康に恵まれ、今日を迎えることが出来ました。

本山の法灯をつぐ尊い佛縁を頂きました。浅学非才、不徳をも顧みずその重責に

堪え得ますか、省みて深く危惧致しております。幸い、

佛祖のご加護と宗派内の皆さま方のご擁護を得て、宗

派と総本山誓願寺のために、自策自励、努力精進したい

と念願して、一日一日を大事にして務めて参りたいと

思っています。

諸行無常、日々移りゆく社会情勢、現在は親子とも

平成生まれが増えて行く新しい時代、新しい世代が来て

います。色々なことが変わって行きます。人工知能や車の時代、自動運転、色々な機能設備等新しくなっていく時代です。しかし、人の気持ちは変わりません。

「明るく」明るい気持ちで暮らす

「正しく」人として間違いない生活をする、人間らしく生きる

「仲よく」仲のよい生活をする

私の理想の真理です。

皆さまのご理解とご協力を、切にお願い申し上げます。

平成三十一年三月 佛日

お釈迦さまの
ご生涯
外伝

お釈迦さまの十大弟子 15

絵・豆田織奈 文・釈尊法話会

論議第一の摩訶迦旋延 その2



アシタ仙人が亡くなった後のことです。

摩訶迦旋延は弟子を指導する立場となりました。師のアシタ仙人が亡くなった直後は、師の教えを守り修行をしていましたが、だんだん師の言葉を忘れ、

「俺には多くの弟子がいる。この弟子達を指導する立場だ。俺は偉いんだ」と鼻が高くなっていきました。すると弟子を指導することもなく、酒や女に溺れるようになり、修行をすることもなくなりました。

ある時のことです。人の噂で仏陀が出現したことを聞きました。

「仏陀が世に現れたのだと。この俺さまよ

り偉い奴などこの世に居ない。どれ、一つもんでやるか」

と思い、お釈迦さまの元へ行きました。

お釈迦さまを見た摩訶迦旋延は、

「何だ仏陀と聞いていたが、ただの若造ではないか。どれ、問答でもしかけてやるか」

と思い、お釈迦さまに問答を仕掛けました。

「問う・・・」

「答う・・・」

「では、それについては・・・」

「答えは・・・」

しかし、何を問うてもお釈迦さまはお答えになり、摩訶迦旋延は問答に負けてしまいました。

「仏陀よ。私を弟子にして下さい」

と、摩訶迦旋延はお釈迦さまの弟子となりました。

お釈迦さまの弟子となった摩訶迦旋延は、教えを聞いて一生懸命修行し、やがて阿羅漢となりました。そして、遠く離れた故郷にも仏教を弘めようと思いい、西インドを布教して回りました。

(つづく)



お釈迦さまと摩訶迦旋延の問答



東龍寺住職 岩瀬賢良

しばしの浄土から 再び娑婆世界へ

夕食の時、翌朝ラクノウに向かうバスの時間を尋ねたら、かなり早い時間しかなく、五時過ぎに起床するため早めに床についた。

翌朝五時半ごろ、二日間の宿泊代を払うのに、お付きの僧侶の部屋をノックして料金を尋ねたら、「決まりはないのでいくらでも・・・」との返事だったが、やはりそれなりのお礼はしなければと思い、これまで泊まった安ホテル並みの五〇〇ルピー（約一二五〇円）を払いスリランカ寺を後にした。まだ明けやらぬシユラヴァステイーは、かなりヒンヤリとしていた。スリランカ寺から幹線道路までの薄暗い道は数百メートルで、道路の斜め左向かいのタイ寺の前にバス停がある。バスを待つこと三〇分くらいだったのである。辺りはどんどん明るくなり、車も少しずつ多くなり行き交うようになり、やっと

バスが来て乗り込んだ時は、太陽も上がり始めていた。時計を見ると六時二五分だった。途中のバライタカウというバス・ターミナルで乗り継ぎの為に降り、チャイを買って飲み、再び七時四五分にバスに乗り、ラクノウのバス・スタンドに着いたのが十一時二〇分、そこからサイクル・リクシャーに乗ってラクノウ駅にたどり着いた。極楽世界から再び喧騒の娑婆世界に戻った気分である。

十一日前の二月二十二日に、ジャンシー駅のレストルームで出会った、カジユラホー（二月二十日に訪れた所）で貴金属店を営んでいる老夫婦から、北部の観光地ナイニタールは素晴らしい所だと勧められ、僕たちはデリーに戻るまでの時間をそこで過ごそうと、ラクノウ駅までやってきた。ラクノウは大きな町で、チケット売り場は駅舎にはなく、駅の敷地内にある別のビルにあるのだ。全く面倒なシステムである。そのビルに入

ろうとしたら、警官が立っていて、大きい荷物は持ち込めないと言われたのである。普段は大ざっぱな国柄なのに、珍しく厳しい様子は、数日前に国内でテロ事件があったらしいのだ。仕方なく改札のある建物の待合室に戻り、利子にバグゲージの番を頼み、再び僕一人でチケット売り場のあるビルに行った。チケット売り場は二階にあり、沢山の窓口に戸惑いながらも、カートゴーダム行き寝台チケット二枚、三三六ルピー（約八四〇円）を払い急いで荷物番をして利子のいる所に戻った。



仏舎利を頭上にかかげられ
(スリランカ寺にて)

総本山誓願寺だより

少年少女参拝団 参加者募集

毎年夏休みに小学校五年生、六年生を対象に行っております。今年は八月十九日(月曜日)、二十日(火曜日)の二日間となります。定員は六〇名、定員に達し次第締切とさせていただきます。各寺院へ募集要項をお知らせしますので、詳しくはそちらをご覧ください。



おもな行事予定

- 三月
 - 十四日(木) 善導忌六阿弥陀功德日
 - 十八日(月)～二十四日(日) 春彼岸
- 四月
 - 二十五日(月)～四月四日(木) 法脈相承
 - 六日(土) 花まつり
 - 十五日(月) 六阿弥陀功德日
 - 二十三日(火)～二十五日(木) 元祖法然上人御忌法要
- 五月
 - 十八日(土) 六阿弥陀功德日
- 六月
 - 十五日(土) 和泉式部忌
 - 十九日(水) 六阿弥陀功德日
- 七月
 - 十四日(日) 六阿弥陀功德日
- 八月
 - 十五日(木) 六阿弥陀功德日
 - 十六日(金) 精霊送り・盆施餓鬼
 - 十九日(月)～二十日(火) 少年少女参拝団

クイズコーナー

【問題】

8頁お寺探偵団で、阿弥陀院さまの釈迦如来立像の体高は何センチでしょうか？数字でお答えください。

〇〇〇センチ

官製はがきに、答え、郵便番号、住所、氏名、電話番号、菩提寺(だんな寺)、感想や質問を必ず書いてご応募下さい。その中より紙面に採用させて頂くことがあります。掲載時には、はがきにてご連絡差し上げます。名前の掲載が困る方は、その時にご返事下さい。今回は、阿弥陀院さまより特製腕輪念珠を4名さま、本山謹製線香を5名さまに抽選して差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】〒444-1250 愛知県岡崎市本宿町東木竹十六番地

欣浄寺内 ちかい編集係

答え 〇〇〇
郵便番号
住所
氏名
電話番号
菩提寺(だんな寺)
感想・質問等

【締切】五月三十一日
(消印有効)

ちかい 第155号

発行日 平成三十一年三月五日
発行所 浄土宗西山深草派
総本山誓願寺

京都市中京区新京極桜之町四五三番地
電話 (〇七五) 二二二一〇九五八
FAX (〇七五) 二二二二〇一九
E-mail info@fukakusa.or.jp
URL http://www.fukakusa.or.jp/

何でも

お寺探偵団

あみだいん
阿弥陀院

Vol.53




今回は愛知県西尾市の「救衆山阿弥陀院 海平教寺」を訪ねました。

profile

田中宗龍師(阿弥陀院第25世 44歳)
兵庫県丹波市で生まれ、佛敎大学在学中、本山にて隨身。後の平成19年に阿弥陀院住職を拝命。一般在家より仏門に入り「妙縁の妙」ご縁によつて今が在り、あらゆる事が自分を導いてくれる妙縁を日々実感しております。

Q1

お寺の歴史を教えてください。

昭和20年の三河大地震により、本堂、鐘楼、観音堂等が倒壊し、

Q2

お寺の宝物を教えてください。

上人が浄土宗に改宗した後、徳川幕府よりご朱印地を賜りました。本堂は昭和31年に檀信徒の芳志の結集により再建されました。

本尊阿弥陀如来、薬師如来坐像、鯖弘法像等の他、釈迦如来立像があります。釈迦如来立像は、衲衣の掛け方が通常の如来像とは異なり、薄地を全身に密着さ

Q3

僧侶としての心がけを教えてください。

「後生大事」死んで終わりじゃない、死んだあとにも命あり。その命のためにも、今を大切に生きる事を心がけ、念仏の日暮らしを送っております。

Q4

「ちわい」の読者に何か頂けますか？

阿弥陀院特製腕輪念珠を4名さまに差し上げます。

資料が散出したので、開創は不詳です。言い伝えによると融通念佛宗の良忍上人の弟子である良覚上人が、長承元年(1132年)京都山城よりこの地に来て百坊と呼ばれる草庵を結び、融通念佛を弘通させたのが始まりです。天文元年(1532年)安翁珠泰

せた形式をとり、仏教発祥の地インドのマトゥラ仏等にしか見られない衣文で、日本では三國伝来の伝説を持つ京都嵯峨の清涼寺の本尊とその模像とされる仏像に限られ、嵯峨式または清涼寺式釈迦と呼ばれています。阿弥陀院の釈迦像は本家清涼寺より大きい177センチの大変貴重な釈迦像として評価されています。

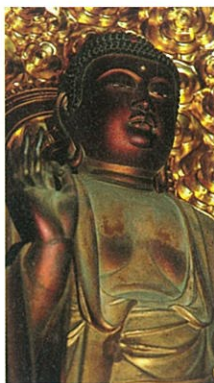
【交通】
名鉄西尾駅から車で10分

【主な行事】
御忌会 3月第2日曜日
盆施餓鬼会 8月8日

【お問い合わせ】
阿弥陀院
〒444-0325
愛知県西尾市楠村町堂地27
電話 0563-59-4313



▲釈迦如来立像



▲阿弥陀如来



◀山門と鯖弘法像



◀弁天池の葦浦